

大腸がん検診における便潜血検査のカットオフ値変更について

○池田加代子、長谷川明子、伊藤真理子、大竹 智子、加藤 友子
高橋 幸子、荒明 弘光、神尾 淳子、坂本 弘明、鈴木 順造
公益財団法人福島県保健衛生協会

【はじめに】

当施設の大腸がん検診は、厚生労働省健康局通知による「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（平成20年3月31日付）に準じ、プロセス指標を基に精度管理を行っている。平成30年度の当施設消化器集団検診精度管理委員会では、厚生労働省のプロセス指標の許容値を考慮に入れ、過去のデータを分析した結果、カットオフ値の新基準値を従来の100ng/mL から120ng/mL とした。今回は平成31年4月より変更した新基準値による分析内容について報告する。

【対象と方法】

平成25年度から29年度の5年間における、厚生労働省と当施設のプロセス指標を比較検討した。カットオフ値については、平成27年度から29年度の3年間に受診した40歳～74歳の地域住民188,420人を対象とし、以下の項目について調査した。

1. 当施設の要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応的中度についてのプロセス指標との比較
2. カットオフ値を100ng/mL から10ng/mL ごとに引き上げた場合の検診結果の集計
3. 受診歴別発見がんの状況及び便中ヘモグロビン濃度100ng/mL～119ng/mL の間でがんと診断された受診者の状況

【結果】

1. 要精検率の許容値は7.0%以下であるのに対し、28年度を除いては各年7.0%以上であった。精検受診率、がん発見率、陽性反応的中度は許容値を満たしていた。
2. カットオフ値を120ng/mL に変更することにより要精検率は6.15%となり、プロセス指標の許容値を満たしていたが、がん発見率は0.15%から0.14%と低値であった。
3. 3年間連続受診者は46.7%、2回受診者は23.7%、1回受診者は16.1%、初回受診者は13.5%であった。発見がんの受診歴は、3年間連続受診者が0.11%、2回受診者が0.11%、1回受診者が0.17%、初回受診者は0.34%であった。便中ヘモグロビン濃度100ng/mL～119ng/mL で大腸がんと診断された受診者は、進行がん2人を含む16人であった。

【考察とまとめ】

当施設の便潜血検査のカットオフ値を120ng/mL に変更したことにより、プロセス指標すべての許容値を満たし、効率的で質の高い大腸がん検診を提供することができた。一方、カットオフ値を引き上げることにより偽陰性となる発見がんがあり、それががん発見率低下につながり、その中には進行がんも含まれていた。これら受診者に対する不利益を改善するためには、初回受診者や1回みの受診者からの発見がんが多いこと、3年連続受診者が50%に満たないことなどから、今後の大腸がん検診受診率アップに向けた対策や、対象年齢である40歳からの逐年受診を強く進めていく必要があると考える。

当施設としては、採便袋の変更や、精検受診率アップに向けて市町村と協力のもと受診者の利益になるような対策を立て、精度管理の状況を評価しつつ改善に向けた検討を行っていきたい。